

JCMU newsletter

ミシガン州立大学連合日本センター
The Japan Center for Michigan Universities

No. 36
2005 春

Director's Report

Jeffery Johnson,
Director of Japan Center for Michigan Universities

Spring semester 2005 is going smoothly even though we added several new aspects to the usual JCMU Japanese program. The regular academic program has the addition of Japanese Popular Culture taught by Robert Aspinall, Akiko Manabe, et. al., at Shiga University. Since this is the first semester to offer this course we are feeling our way and making adjustments. But as testament to the currency of this topic, NHK (Japan's BBC or PBS) ran a show on Otaku culture on the Sunday show Art Scene on the evening of February 27. The topic is frequently in the newspapers these days and has truly caught fire inside and outside of Japan. No one knows that better than JCMU students who may have grown up on Japanese anime but are getting their first taste of such a university course.

The second addition to the usual busy schedule of the academic program is the training program for the American Pavilion guides for Aichi Expo 2005. At the moment we are at about 130% capacity, and juggling all aspects of these programs and lectures on top of the English and Japanese programs and their accompanying classes and activities has been a challenge. To my knowledge JCMU's participation in this training was the brainchild of Martin Stack the program coordinator at MSU, and running the program at all would not be possible without the cooperation of Mr. Kosaka at Toyota Biwako-so where the guides are housed. The guides have said that Mr. Toshi Tawarayama, who is the caretaker of the facility and coordinator of the guides activities, is the greatest "house mother" ever. The Japanese language portion of the training has just come to a close, and the guides have been joined by eight mentor guides for the last week of training here at JCMU before relocating to Nagoya.

Thanks go out to all involved, but to mention a few: Bernard Taresco, Michelle Boodleman and many guest lecturers of the Aichi Expo team, the staff at the Lake Biwa Museum, Hikone Castle, and the Nagahama Kurokabe district. JCMU's own Hitomi Kitasaka, Keiko Melville, and Minoru Aizawa doubled up their always busy teaching schedules to insure that the guides received genuine-JCMU, high-quality language training. We all look forward to the chance to see the guides in action at the American Pavilion at Aichi Expo 2005.

The second round of guide training will start in early May and overlap with the regular JCMU summer program in June. After the completion of the entirety of the Expo program in September a number of the guides will return to JCMU to take fall semester courses that will run through to December, completing a full calendar year of JCMU's participation in Expo training and the transition of the guides back to their regular academic careers at their respective campuses.



愛知万博アメリカ館のガイドになる学生たち

ディレクターズ レポート

ジェフリー・ジョンソン
ミシガン州立大学連合日本センター所長

2005年春学期は、通常のJCMUプログラムに新しい側面が加えられましたが、順調に進んでおります。従来の日本語プログラムにおいては、滋賀大学のロバート・アスピノール教授や真鍋晶子助教授による日本のポップ・カルチャーについての授業を追加しました。今学期がこのクラスを行う最初の学期になるので、私たちはいろいろな調整をしながら手

探りで進んでおりますが、このテーマの話題性向上の証拠として、2月27日(日)晩のNHK番組「新日曜美術館」の中の「アート・シーン」でオタク文化に関する番組が放映されました。現在この話題はしばしば新聞にも掲載されますし、日本の内外で大きな注目を集めています。JCMUの学生は、日本のアニメに馴染みがあるかもしれませんが、先述のような初の試みとなる大学の授業を経験しており、この話題について最もよく知っていると言えます。

従来多忙なアカデミック・プログラムにおいて二つ目に追加されたのは、愛知万博「愛・地球博」アメリカ館のための学生ガイド養成プログラムです。現在、私たちが受け入れている学生総数は定員の約130%におよんでいます。既存の英語や日本語のプログラムに加え、ガイド養成に関わる授業や活動を組み込んでいくことは、たいへんな難題でした。私の知る限り、このJCMUによるガイド養成計画の生みの親は、ミシガン州立大学でJCMUのプログラム・コーディネーターを務めるマーティン・スタック氏です。また、ガイドとなる学生たちに宿舎を提供して下さったトヨタびわ湖荘の上阪氏の協力がなければ、これは成功しませんでした。さらに、学生たちは、宿泊所管理とガイド養成活動のコーディネーターを務める俄山利史氏を、「これまで出会った中で、最高の“お母さん”」と評しています。同氏が、“お母さん”のように、学生たちの面倒を見て下さったからです。現在、日本語授業の部分は終わり、名古屋移動前の最後の一週間のために8人のガイド指導係がJCMUでの活動に加わりました。

ここではごく少数の方のお名前しか挙げられませんが、関わって下さった全ての方に、感謝の言葉を送りたいと思います。アメリカ館担当者のバーナード・タレスコ氏、ミシェル・ブードゥルマン氏、技術専門スタッフの方々、また琵琶湖博物館・長浜黒壁スクエアのスタッフの皆さんや彦根観光協会の彦根城ボランティアガイドの方々、さらにJCMU本来のハイ・クオリティな語学トレーニングを保証するために、従来に増してさらに過密な授業スケジュールに応じて下さった、JCMUの北坂仁美先生、メルビル恵子先生、相澤稔先生にお礼申し上げます。私たちは皆、愛知万博のアメリカ館で活躍しているガイドたちに出会う機会を楽しみにしています。

ガイド養成の第二ラウンドは5月上旬に始まり、6月にはJCMUの通常の夏学期と授業の時期が重なります。万博の全期間が終了する9月には、多くの学生が名古屋からJCMUに戻ってきて、12月まで続く秋学期の授業を受講する予定です。そして、万博に関与するまる一年間の日程を終了し、ガイドとなった学生たちは各々の大学に戻ることであります。

特

集



U.S. PAVILION WORLD EXPO 2005 | AICHI JAPAN

愛知万博がいよいよ開幕！！

アメリカ館(U.S. Pavilion)のガイドを務めるのは「JCMU」の卒業生たち！

今回のJCMU Newsletterでは、本年1月から3月にかけて、JCMUで日本語や接遇を学んだ学生たちがガイドを務めるアメリカ館を特集します。

アメリカ館の場所は？

万博の会場には長久手会場と瀬戸会場があり、このうちアメリカ館は長久手会場のグローバル・コモン2に位置しています。このエリアには、アメリカ合衆国のほか、カナダ、キューバ、アルゼンチンなど、北米・中米・南米の各国が出展しています。



(出典：愛・地球博公式ウェブサイト)

アメリカ館の外観は？

アメリカ館の外壁には、米国の国旗を象徴したディスプレイが備えられています。このディスプレイは、万博の会期中、全米からのライブ映像をはじめ、万博内のイベントや来場している方々の様子など、バラエティに富んだ映像を次々に映し出していきます。大リーグの中継も行われる見込みです。



アメリカ館の内部の様子は？

アメリカ館では、米国の歴史上の偉人ベンジャミン・フランクリンが立体映像で登場し、来場者を迎えます。彼がホストとして米国の自然や科学技術の発展を紹介するなど、趣向を凝らした演出が皆さんの来場を待ち構えています。

また、館内では、音楽、エンターテインメント、ビジネス・シンポジウムのほか、米国のパフォーマー、教育者、オピニオン・リーダーたちが提起する様々なテーマに関するプレゼンテーションなど、数多くの文化的イベントが催される予定です。

一口メモ...ベンジャミン・フランクリンってどんな人？

ベンジャミン・フランクリンは、1706年マサチューセッツ州ボストンに生まれ、科学者、政治家、出版者として数々の功績を残しました。

フランクリンの功績で一番知られているのは、電気に関する実験ではないでしょうか。凧を使って雷が電気であることを証明したことが有名です。また、科学実験や発明に加え、独立宣言や憲法の起草に加わるなど、フランクリンはアメリカ建国時の民主主義と独立精神を支えた功労者でもあります。

アメリカ館は、この不朽の精神の持ち主ベンジャミン・フランクリンを、世界の新時代への幕開けを告げる人物としてホスト役に選びました。



ガイドを務める学生たち

1月からJCMUで日本語や日本文化を学んできた学生たちは、3月に入ってからは最終仕上げとして接遇や万博そのものについて学習しました。毎日朝から晩まで、トレーニングは長時間に及びましたが、みんな一生懸命取り組んでいました。「たいへんなことは...?」との問いには、「(日本語の)敬語とか...」との回答が返ってきました。



皆さんも是非、愛知万博アメリカ館に足を運んでみてください。滋賀県に愛着を持つJCMU卒業生たちは、皆さんの来場を大歓迎してくれるはずですよ！

公式ウェブサイトのご案内

愛・地球博(愛知万博) <http://www.expo2005.or.jp>

愛知万博アメリカ館 <http://www.uspavilion.com>

《春学期英語プログラムご案内》

開講期間2005年4月13日(水)~7月5日(火)

英語集中コース

月~金 10:00~12:00 13:10~15:10

留学・進学・転職・自己啓発のための英語総合力アップを図るコースです。午前中のみ受講できるモーニングコースもあります。

*アメリカからの留学生向け付属寮にルームメイトとして入寮できます。

スキル・テーマ別コース

週1~2回 10:00~12:00 13:10~15:10

あなたの目的・時間にあわせて、「スピーキング・リスニング」、「ライティング」、「アメリカ・オン・ビデオ」、「総合英語」の実力アップを図るための4つのコースがあります。

夜間コース

月・木 週2回 19:00~20:30

実用英会話ブラッシュアップのための夜間コースです。

詳しくは、ミシガン州立大学連合日本センター
TEL 0749-26-3400までお問い合わせください。

ホームページができましたので、是非ご利用ください。
http://www.jcmu.net

この春から大津でも 夜間マルチスキルコースを開講します!

開講期間:2005年4月13日(水)~7月6日(水)

時間:毎週水曜日 19:00~20:30

場所:ピアザ淡海(大津市におの浜一丁目(びわ湖ホール東隣))

2005年度 行事予定

4/9 日本語発表会

4/13 英語プログラム春学期開講

4/16 日本語・日本文化プログラム/
英語プログラム(冬学期)修了式

長期ホストファミリー募集

ミシガン州立大学連合日本センターでは、アメリカ・ミシガン州を中心に、全米の大学から来日している留学生のホストファミリーを随時募集しています。留学生たちは、日本語、日本文化に興味をもち、日本の家庭で生活しながら、日本人とのふれあいを求めています。ひとりでも多くの留学生がホームステイの体験ができるようご協力をお願いします。

当センターまでの通学所要時間が、1時間程度の範囲にお住まいのご家庭であることなどの条件がございます。

詳しくは、下記までお問い合わせください。

《切に思ふことは必ずとぐるなり》

2005年が明け、新学期が始まりもう2ヶ月。学生の皆さんは、日本語プログラム、英語プログラムとも意欲的に学び、大きな成果を上げているようです。事務室の窓口やホールでは、英語と日本語が入り交じっています。

外国語の修得は、私にはとても難しいことです。40年前、初めて専門書を原書で読むことになったとき、指導教授が、「何回も何回も読み返しなさい。ある時、突然、なぜそうなるのかわからないけれど、文意が理解できるようになるでしょう」と言いました。クラスの誰もが叶いませんでしたが、当時、高校の化学の教科書にあった、ベンゼンという物質の構造式が発見されたときの逸話を思い出しました。ベンゼンは、石油化学製品の原料として有用ですが、大気への汚染の心配もある物質です。19世紀中頃、初めて発見され、分子式も確認されましたが、その構造はまだ解明されておらず、当時の化学者にとって大きな謎でした。ドイツの化学者、F.A.Kekuleも、その構造について、毎日試行錯誤を繰り返し、悩み、必死に考えました。ある日、疲れてうたた寝をしていると、6匹のヘビが互いのしっぽをくわえて輪になっている(6匹の猿が手を繋いでいたとか、蛇が自分の尻尾を噛んでぐるぐる回っていたとか、ともいわれている)夢を見ました。このことをヒントに、現在使われている、亀の甲の形をした構造式を発見したのです。ニュートンが万有引力に気づき、湯川秀樹博士が中間子を思いついたのも、何日も続けてそのことについて考えていたからなのだと思います。まさに、「切に思ふことは必ずとぐるなり。強き敵、深き色、重き宝らなれども、切に思ふ心ふかければ、必ず方便も出来る様あるべし。是れ天地善神の冥加もありて必ず成ずるなり」です。心に大なる願望があり、求める思いが続くならば、必ず良い方法が見つかり、天地に在る神々までもがこっそりと手を貸して、願いが成就するということでしょうか。この言葉は、「正法眼蔵随聞記」にあります。鎌倉時代の禅僧道元が、折に触れて語った言葉を弟子の懐袋が書き留めておいたものです。「切に思ふ」とは、遅くまで勉強したり、仕事で残業するといった程度の頑張りではありません。そんな頑張りとは異なる「切に思ふ」ことなのです。自分の欲望ではなく、社会に役立つ仕事、自然の理法の解明や道を極める修行、そういったものに命をかけることだと道元禅師はいつているのでしょうか。だからこそ「天地善神の冥加もありて」という、なんと説明のつかない力に助けられ、自分の努力が結実するのです。仕事に命をかけ、自分は神さまに助けられているんだなあ、としみじみ思えるそんな冥利に尽きる生き方がしたいですね。(真田 傳強)

Snapshots



ハロウィーンパーティでのひとこま

ミシガン州立大学連合 日本センター

〒522-0002

滋賀県彦根市松原町網代口1435 86

TEL 0749 26 3400 FAX 0749 24 9356

http://www.jcmu.net

編集・発行 (財)滋賀県国際協会 彦根事務所